

ミディトマト簡易バッグ栽培の実用規模での技術実証

1. 目的

福井県農業試験場栽培部園芸研究グループで試験実施されているミディトマトの簡易隔離栽培システムについて、実用規模での栽培を実証し、慣行的な栽培方法と比較しながら作業上における問題点等を明らかにする。

2. 方法

1) 試験場所 園芸振興センター内D 6 ハウス (6m×35m)

2) 耕種概要

(1) 栽培装置 福井農試作成バッグ栽培法

(2) 灌水方法 農試作成マニュアルに準じて施用 (タンクミックスF & B、N0～207mg/株/日を毎日施用)

(4) 使用培地 バーク堆肥 200/m

(5) 定植 5株/1m (株間 20cm)、450株/2.1a、1本仕立て2条振り分け

(6) 定植時期 7月6日

3. 結果の概要

1) ミディトマト簡易バッグ栽培の立ち上げ段階での作業や、簡易バッグ栽培を行うことにより省かれる作業の所要時間および所要人数について表1に示した。簡易バッグ栽培は耕耘、畝立のほか、マルチ設置や施肥・灌水作業にかかる所要時間が削減される。しかしながら、初期作業の配管等システム作成、バッグ作成時間等にかかる作業時間を要する。

以上の結果から、簡易バッグ栽培は初期作業にかかる時間は慣行栽培より作業時間を要するものの、次回作からは、作業時間が慣行栽培よりも削減されることが考えられた。

また、簡易バッグ栽培を導入する際に、バッグの作成方法、タイマーの設置等についてマニュアル化することが必要であると考えられる。

【具体的データ】

表1 簡易バッグ栽培特有の作業にかかる所要人数および所要時間と慣行栽培との比較

作業	簡易バッグ栽培			対照※		
	所要人数(/2a)	所要時間(h/2a)	備考	所要人数(/2a)	所要時間(h/2a)	備考
バッグ作成、配置	4	4	初期作業	-	-	
灌水システム設置	2	6	初期作業	1	0.5	灌水チューブ設置
施肥、耕耘、畝立	-	-		1	1.5	トラクター使用
マルチ設置	1	0.5		2	0.5	
施肥(追肥)、灌水	1	2	液肥作成、1h/回	1	13.3	20min/回×40回
総作業時間(h/人/2a)		30.5			16.3	